

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課長 鈴木岳明	電話番号	0852-22-5311
----------	-----------	------	--------------

事務事業の名称	水産技術センター基礎的試験研究費		
目的	(1) 対象	漁業者	
	(2) 意図	安定的な漁業生産によって経営を安定させる	
事業概要	水産資源、漁場環境等のデータ収集や増養殖技術の開発、水産加工業への技術的支援を通じ、本県水産業の継続的な発展に資する基礎的な研究を実施する。資源管理手法の確立と資源の維持増大を図るため、ヤマトシジミの資源動向や生息環境をモニタリングし、漁業者等が取り組む資源管理と増殖に係る情報を提供する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	シジミの生産金額	目標値	24.0	25.5	27.0	28.5	30.0	億円
			取組目標値						
	式・定義	シジミの生産金額	実績値	23.0					
			達成率	95.9	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)		20,731
うち一般財源 (千円)		20,731

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	⑤今年度新規
---------------------	--------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基じた現状)

・宍道湖におけるヤマトシジミの資源量は高水準を維持、漁獲量は近年増加傾向 (H27年：4,006トン)

6. 成果があったこと (改善されたこと)

シジミ資源は、平成24,25年には低い水準であったが、平成25年秋季調査で過去2番目に高い水準まで急激に回復。これは、平成24年秋以降、高い塩分濃度が継続し、シジミの餌となる珪藻が優占したことや漁業者による資源管理の強化の取組みなどが大きな要因。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
  - ・シジミ資源量は高水準を維持しているが、漁獲量は過去の水準と比較すると依然として低い状態にあるため、更なる漁獲量の増加が必要
- ②困っている状況が発生している「原因」
  - ・シジミは漁獲対象の大きさに成長するまでに2~3年程度かかり、資源の増加と漁獲量増加にタイムラグが生じるため、引き続き資源量高水準の維持が必要
- ③原因を解消するための「課題」
  - ・シジミ資源の変動要因について、宍道湖の生態系と物理環境及びシジミ資源との関係モデルを構築し、資源安定化に向けた方策の提言と実行が必要

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・シジミについては、「宍道湖保全再生協議会」が中心となって流動モデルを組み込んだ生態系モデルを構築し、シジミを含めた水産資源の安定化のための方策を提言する。

9. 追加評価 (任意記載)

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。